

◆病院図書室ネットワーク紹介◆

## 沖縄メディカルライブラリー研究会について

久高千秋

### I. はじめに

沖縄は、先の大戦で唯一地上戦が行われた県であり、長くアメリカ統治下に置かれていたという歴史的背景があります。

戦後、医学文献に乏しい状況も続きましたが、1984年琉球大学附属図書館医学部分館が開館されました。琉球大学附属図書館医学部分館と病院図書室との交流会、勉強会を経て1997年9月に公立病院を含む県内6つの病院を中心としたネットワークが立ち上がり、翌10月には、沖縄メディカルライブラリー研究会（以下 OML）が正式に誕生しました<sup>1)</sup>。

現在、OML は、沖縄県内の病院図書室17施設を中心にクリニック1施設、医療系専門学

校4施設、計22施設の会員施設からなる研究会となりおかげ様で2012年には発足15周年を迎えます。

### II. 活動内容

OML では、年間2回の研修会と機関誌「Caracol（カラコル）」の発行、文献の相互貸借、医学雑誌総合目録の発行の他、現況調査、メールによる情報交換など、会員の資質の向上、図書室または会員相互の緊密な協力体制の強化を目指し活動しています。

### III. 研修会

年に2回開催される研修会は、その年のテーマにもとづいての勉強会、新人教育、グループワーク、研修会参加報告など、充実したプログラムになっています。

特に人事異動で初めて図書室に勤務する担当者をあたたかく迎え、新人を対象にした教育は経験の長い図書担当者にとっても業務を振り返ることができる良い機会です。

今年6月に開催された第30回研修会では離島・へき地支援について会員施設からの講演があり、沖縄の地理的条件の特色を活かした内容になりました（図1）。

多くの会員施設では図書担当が1名または、他部署との兼務という状況も多い中で、会員施設の特徴を活かした研修は、色々なこ



図1 第30回研修会終了後

KUDAKA Chiaki

沖縄赤十字病院 図書室

rc-tosho@okinawa-rch.jp

（受理日：2012.9.7）

とを学べる貴重な機会となっています。

また、会員による県外を含めた研修参加報告は他県と離れている沖縄にとって大事な情報源のひとつです。

#### IV. 相互貸借

OML は、発足当時から会員間での文献複写料を無料で設定しています。

OML の最大の特徴は、この相互貸借のシステムです。

各担当者は、目録をもとに偏りの無いよう会員施設へ文献複写の依頼を行います。

2009年度に行った第2回現況調査の結果では、県内大学施設を合わせると約50%を沖縄県内での相互貸借で入手でき、依頼者の手元へより早く複写物を届ける事ができます(図2)。

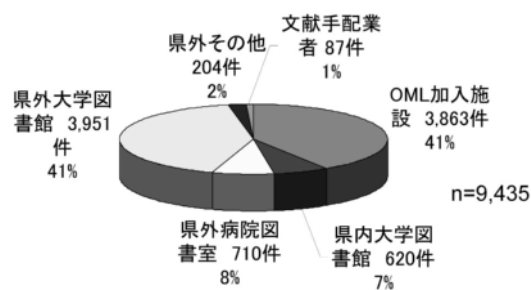


図2 相互貸借 文献複写依頼先 2009年～2010年第2回調査 会員23施設

#### V. 今後の展望

OML 機関誌ロゴの Caracol とはスペイン語でかたつむりを意味しています(図3)。

私たちは、Caracol のように歩みはゆっくりながらも研鑽を積み、着実な一步を歩んで行きたいと思えます<sup>2)</sup>。

その一步として、OML では、研究会のホームページ(以下HP)を作成中です。

HPを通じて、会員間の情報共有を強化する他、多くの人にOMLの活動を知ってもらうことで、医学図書室の意義や必要性を伝える事ができ、研究会の更なる発展につなげる事ができると考えています。

また、第3回現況調査を実施中ですので、その結果をふまえ、会員の資質の向上、図書室の向上へ向けて活動していきます。



図3 機関誌「Caracol」ロゴ

#### 引用文献

- 1) 仲里律子, 濱元ゆかり: 道一14年のあゆみと現在、そして未来へ 沖縄メディカルライブラリー研究会の歩み. ほすびたるらいぶらりあん 2012; 37(1): 16.
- 2) 久高千秋, 玉城 希 他: 現況調査から見えることー現状と今後の展望ー. ほすびたるらいぶらりあん 2012; 37(1): 23.